

①北上盆地西部の交通の要所「瀬畑」

瀬畑の「秀衡街道」



平泉から奥羽山脈よりに北進した秀衡街道は、北上市和賀町山口の瀬畑から西へ向かった。瀬畑は北上盆地西部の交通の結節点。和賀川には渡し船もあった。平和街道以前の小宿場。江戸時代、瀬畑以西の秀衡街道は仙北街道・秋田街道と呼ばれていた。



瀬畑に立てられた秀衡街道の標柱

②上須々孫館跡の経塚

上須々孫館跡の経塚。通路の左右に各一基



秀衡街道沿いの経塚遺構は、和賀川に架かる煤孫橋の南六〇〇m地点、金ヶ崎段丘の北側の縁が突き出した先端部に位置する。経塚は大小二基隣り合っており、十二世紀末の陶器壺渥美産、須恵器系、常滑産三筋文、墨書礫等が出土した。

経塚の南西に広がる法量野には、源義経の家臣佐藤継信子孫の一族が落ちのびてきたという言い伝えがある。



経塚から出土した渥美産陶器壺

③仙人権現別当多間院伊澤家の住宅



多間院伊澤家の住宅

岩沢の多間院伊澤家は、西へ向かう秀衡街道沿いにある。和賀の仙人峠に秀衡が先祖の霊を祀った仙人権現(現久那斗神社)の別当で、羽黒派修験。中世には和賀氏の家臣であった。住宅は十八世紀末から十九世紀初めの頃の建物で、この地方一般民家の形式。上手座敷は社寺建築の修験道場を含む。江戸時代の山伏住宅の貴重な遺構として、平成二年、国の重要文化財に指定された。

隣接の久那斗神社(重要文化財)は天文三年(一五三四)に勧請された里宮。

④中尊寺ハスと多間院伊澤家

昭和二十五年、中尊寺金色堂の御遺体学術調査の際、藤原氏四代泰衡の首桶からハスの種子が採取された。平成五年から培養、同十年に開花に成功。「中尊寺ハス」と命名される。八百年の眠りから覚めた中尊寺ハスは和蓮の種、清楚で美しい。多間院伊澤家は中尊寺ゆかりの地として、同十四年に株分けされた。



多間院伊澤家の池に咲いた中尊寺ハス

⑤仙人峠の仙人権現(現久那斗神社)と姥杉

仙人峠の仙人権現社(現久那斗神社)



仙人峠の「姥杉」と秀衡街道



⑥水沢鉱山跡

仙人山(八八二m)東麓の水沢鉱山(銅)は平泉藤原氏の頃、金山と伝える。寛文元年(一六六一)開山、休山と再開を繰り返す。昭和二十九年まで続く。明治中期、古河市兵衛が経営し、明治四十二年には従業員数七〇人、学校や郵便局、劇場もある鉱山集落が形成された。近年、文化庁による近代遺産(鉱山)調査が実施された。



からみ煉瓦で造られた煙道(水沢鉱山)

網取層の西側の谷が「吉ノ沢」(網取鉱山跡)



⑦金商吉次の隠し砂金取場「吉ノ沢」(網取鉱山跡)

石羽根ダム上流部の北岸に網取層が露出している。その西側に金商吉次の隠し砂金取場と伝える吉ノ沢がある。江戸中期にも採鉱したという。網取鉱山の全盛期は、三菱合資会社が経営した大正初期。銅を主に、金・銀も生産した。当時の従業員数は三〇〇人余。

